

# 志木二中だより



令和2年度 2月号  
志木市立志木第二中学校

令和3年2月1日(月)  
志木市館1-3-1

TEL 048-473-2379

## あいさつから

校長 本 莊 真

今年度、目指す学校像を「気持ち良い あいさつ溢れる 志木二中」としました。本校の良さである「あいさつ」を前面に掲げることにより、学校教育目標である『「勇気」前に向かう強い心をもつ生徒「信頼」静かに考え他を認め励ます生徒』の育成に近づけると考えたのです。

毎朝、校門に立ち「おはようございます」と生徒にあいさつをして4年になろうとしています。今年度は特にしっかり声を出してあいさつしてくれています。中学生がきちんとあいさつしてくれるのを見てからか、集団登校で道路の反対側を歩く小学生も、ものすごい大きな声で「おはようございます」を言ってくれるようになりました。寒い朝が続きますが、元気な声であいさつし合うと体が暖かくなってきて、心までぽかぽかとしてきます。朝の8時頃たくさんの元気をもらって、一日中元気でいられます。



本校に着任したころは、今より返ってくる声が多く小さかったように思います。学生時代、恩師から「あいさつ」についてこんな話を聞いたのを思い出しながら校門に立っていました。

「大学の教員になったころ、大学内で学生にあいさつしてもうんともすんとも言わない者がいる。教員がしているのだから学生が返すのが当然だと腹を立てていた。注意したりもした。あるとき、学生をお地蔵さんだと思ふようにしたら、腹が立たなくなった。お地蔵さんはしゃべらないからしかたない。そうすると不思議なことにだんだんあいさつが返ってくるようになった。おそらく私の表情や声の様子などが変わっていったのかもしれない。」

1月6日、始業式を終えて2年生に集まってもらい、「残念だけど、緊急事態宣言も発令される見通しがあり、月末のスキー宿泊学習は中止とする。」という話をしました。生徒は本当に悔しかったと思います。でも私の話のあとの「気をつけ、礼」の号令に合わせ、多くの生徒が「ありがとうございました。」と言ってくれました。いつもの流れでの言葉かもしれませんが、私はその場で涙が溢れそうになり必死でこらえました。「高校生の姉の修学旅行が中止になり、それをプリント1枚で通知されたらしくとても残念がっていた。私たちも中止になり残念だったけど、校長先生が直接私たちにきちんと話してくれたのでありがたく、納得できた。」こんなことを言ってくれた3年生もありました。大会の応援やちょっとしたことへのお礼や感謝を言いに来ってくれる生徒もあり、このいつもと違う厳しい状況にあっても、志木二中学生の心が育っていることをたいへんうれしく感じています。